

翔べ！松中生

令和4年度 第7号 11月1日発行

「生徒が主役の学校行事」

校長 齋藤 明

秋の過ごしやすい日々は「あっ」という間に過ぎ去り、冬の訪れを感じさせる季節となりました。（まだ上着を着ていない子どもたちも多いですが・・・）

さて、10月1日（土）の体育祭、22日（土）の稲穂祭と大きな行事を続けて開催することができました。開催に当たっては、まだまだ油断できない新型コロナウイルスの感染拡大防止対策の実施でしたが、保護者の皆様のご理解ご協力で深く感謝申し上げます。

今年の体育祭は、「生徒主体」「生徒が主役」という方針で計画を立てて実施しました。今までの体育祭運営を振り返ると、どうしても先生の指示で生徒が動く事が多かったり、担任が様々な役割を担当することで、生徒と一緒に時間が確保できないことが課題でした。そこで、次の3つをねらいとしました。①招集・整列・退場・競技の準備等、実行委員を中心に体育祭を自分たちで運営することで自信に繋げること。②体育祭の運営を通じてリーダー性を養うこと。③生徒と担任が応援席で感動を共有する時間を確保することです。まだまだ、1年目でうまくいかず、改善点もありましたが、生徒が考え、行動する機会が増えたことで、赤チームと青チームとの各チーム内で、他学年を応援する声が響き、競技が盛り上がり、縦割り連合で行う行事の良さが出せた、大成功となる体育祭となりました。

次年度は、競技の工夫だけでなく、準備運動や集合・解散などでも、生徒に様々なチャンスを与え、新たに体育祭の「華」となる場面を創っていく工夫をしていきます。

稲穂祭では、体育祭のカラー連合を活かしながらクラス間での合唱交流を実施するなど、だんだんと今までの松伏中が戻ってきました。その交流会で刺激をもらいながら、各クラスの合唱に対する意識やまとまりも良くなってきました。日々の練習では、実行委員やパートリーダーがクラスを中心となり、指示を出しながら練習をリードしてくれました。

3年ぶりに全学年そろっての稲穂祭では、1年生からクラス合唱、学年合唱の順で発表しました。学年ごとに成長した声質やハーモニーなど美しい歌声が体育館いっぱいに響き大成功の合唱でした。

また、文化部の発表の1つとしてスローガンの看板を作ってくれた美術部。会場を盛り上げてくれた吹奏楽部の皆さんの発表もありました。それらの成功の陰には、稲穂祭実行委員さんの前日までの準備や当日の司会・運営など、手際よく連携がとれており、見事な仕事ぶりでした。本当に良い稲穂祭となりました。ありがとうございました。

この2つの行事を通じて改めて感じたことは、「行事は生徒が主役」ということです。体育祭や稲穂祭を通じ、子どもたちの大きな成長を感じる事ができ、とても嬉しく思います。行事後の1年生の教室では、先輩方に感謝の手紙を楽しそうに準備している光景を目にしました。行事での勝ち負けという結果だけでなく、カラー連合（兄弟学級）として一緒に活動してくれた先輩への「感謝」の手紙には、一人一人の大切な心からのメッセージが刻まれていました。